

# やったぞ!! 向島・にっこりフェスティバルだ

向島・愛隣館研修センター  
ニ ュ ー ス

## 青空のもと

### 300人が参加

向島の催し、ニュース  
は、愛隣館研修センタ  
ーへお知らせ下さい。

社会福祉法人イエス団  
愛隣館研修センター  
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151  
TEL 075(621)3849  
FAX 075(621)1579  
発行 平田 義  
編集 恵 大一郎



当日は、おおにぎわい!

向島に住む様々な立場の人が出会い、交流を深めることにより、「障害」を持つものも、お年寄りも、小さな子供たちも、みんなが活き活きと暮らせる街づくりを目指そうとの趣旨で、『向島・にっこりフェスティバル』が、去る十一月十七日、愛隣館は野の百合・空の鳥幼児園にて開催されました。(主催)『向島にっこりフェスティバル』実行委員会)

当日は、晴天に恵まれ、三百人を超える大勢の人々が集ってくださり、おでんやタコ焼き、焼きソバなどの食物に舌鼓を打ち、皆様からお寄せ頂いた不用品のコーナーは完売の大盛況でした。子供向けの映

面や、バンドに落語。それぞ  
れの人々が自分の興味に合わせ  
て楽しんでいくって下さいいま  
した。また、「生活センター」  
設置準備委員会が製作した  
「障害」者の日常生活や「障  
害」児の登校風景、あそぼう  
会などの活動をまとめたビデ  
オの上映コーナーでは、初め  
てその実態を知った人々から  
「たいへんやな〜!」なんてか  
ならんかいな〜との感想が聞  
かれ、誰もが気軽に利用でき  
る『生活センター』の必要性  
が改めて確認されました。  
メインプログラムでは、初  
めて車イスに乗って街を歩い

てみた参加者たちから一様に、  
街の構造が、車椅子の人達の  
ことを考慮に入れずに造られ  
ているのではないかという声  
が聞かれました。  
なにはともあれ、大盛況だ  
ったフェスティバル。このマ  
ンパワーをなんらかの具体的  
な形のものに活かしていつて  
『生活センター』造りをはじ  
め、様々な未来の夢を現さ  
せていきたいものだと感じま  
した。  
最後に、当日集ってくださ  
った皆さん、どうもありがと  
うございました。また、これ  
からも宜しくお願いいたしま

◆あそぼう会 ◆ベテスダの家 ◆めぐみホーム  
◆ふうせん文庫 ◆覆の会 ◆障害者行動センター ◆育の会 ◆J C  
I L ◆アクセス京都 ◆誕生日ありがとう ◆世光教会 ◆手話サ  
クル ◆洛南共同作業所 ◆愛隣館研修センター

#### ◎当日参加した主な団体◎

向島教室

工作教室

★自分で作る楽しさを体験  
向でもない木切れが自分たちの手で、  
おもちゃに変わっていくとき、買った  
もので遊ぶだけでは味わえない「何か」  
を、子供達は味わうことでしよう。

★こんなものを作ります  
たこ、こま、竹馬、竹とんぼ、飛行機、  
ヨーヨー、水鉄砲、ゲームなどなど、  
いろいろな楽しいものを作ります。

★要 項  
・日時：毎週火曜日 PM 2時~4時 年長幼児、小学1,2,3年  
PM 3時~5時 小学4,5,6年  
・場所：当センター (〒621-3849)  
・月謝：4000円 + 材料費…幼~小3は500円  
小4~6は1000円  
(兄弟割引 十一人につき500円引き)  
・指導：松島洋一  
(元中学校美術教諭。現在木の玩具デザインを本業と  
する。日本おもちゃ協会会員。日本おもちゃデザイ  
ナー協会会員。)

・連絡先：伏見区桃山町伊賀67-1桃山伊賀団地1-209 0621-4088 又は、当センターまで

# 車イス オリエンテーリング

~にっこりフェスティバルから~  
車イスにのって街へ

今回の『向島・にっこりフェスティバル』のメインプログラムであった「車椅子オリエンテーリング」がフェスティバルの最後を飾り、とり行われました。

車椅子使用者がたくさん住む街「向島ニュータウン」。普段、車椅子を使うことのない人達が、実際に車椅子を押してみても、車椅子の基本的な操作を知ることと、また、車椅子に乗ってみて感じる「障害」の状況を学ぶことに

よって、より住みよい「向島ニュータウン」をつくらうという主旨で企画されました。

まず、行動センターの永井氏より簡単な車椅子操作の説明の後、三名の参加者と指導する車椅子使用者とにグループが分けられました。

それぞれのグループは、与えられた指示に従って、ポイントを探し、戻ってくるというオリエンテーリング方式で行われました。

以下はその報告です。

コース名	参加者の感想
近商ストア - 買物①	「階段が大変だった。乗ってみて生きた心地がしなかった。」(21才 姓)
近商ストア - 買物②	「押す人が慣れていなかったのでも少し恐かったです。でもこどもさんがたくさん参加してくれてうれしかった。」(「障害」見の母)
近鉄バスに乗り、谷川ストアへ	「車椅子でバスに乗ることがこんなにしんどい事とは思ってもよらなかった」(15才 姓)
近鉄電車で、呉竹文化センターへ	「電車に乗って混んでいたのでも、迷惑そうな顔をされていやだったけど、降りるときに手伝ってくれた人がいてうれしかった」(15才 姓)
向島図書館から電話ボックス	「図書館では上の方の棚に手が届かないのが困った。」(17才 姓) 「障害者に対して貸出期間の延長など配慮されているので良い」(27才 姓)
モスバーガーでドリンク注文	「段差が怖かったのと、店が車椅子には狭くて大変だった。」(17才 姓) 「思ったより操作が難しかった。歩道の自転車が邪魔だった。」(18才 姓)

## 車イス基本操作の説明を受ける参加者



ここで、各グループに入り指導された、車椅子使用者からの声を聞いてみると。

◆「段差や溝、排水溝のふた、自転車など、日頃障害物だとは感じないものが、私たちがわかっては、障害になることをわかってもらえたと思

♣「車椅子は私たちの足。おもちゃではないことを知ってもらえた。」

♥「思ったよりスムーズにいったと思う。採点すればかなりの高得点ですよ。向島の駅員さんも協力的やったしね。」

♠「ちよつと怖かった。」

★「とてもおもしろかった。来てよかった。」

という感じで、参加者も車椅子使用者も一定の評価はさ

れていたようです。今後、京都新聞社会福祉事業団からいただいた車椅子もフルに活用して、向島の街がより一層住みやすくなるように、講習会を続けていきたいと思っ

# ぼくが調べた

## 向島の歴史

### 連載 第七回 柏木 正行

古代、向島の姿は、巨椋池（おぐらいけ）と呼ばれる巨大な湖の一部でした。渡来人による開発によつて、段々と姿を変えた巨椋池は、桂川・宇治川・木津川との合流地点ということもあり、水上交通の要所となり、人や物の中継地として賑わうようになっていきました。

さらに、十六世紀の末から豊臣秀吉による文禄期の大土木工事により、その地形を大きく変貌させたのでした。京都の貴族たちの動きを牽制する意味からも、伏見の重要性を認識していた秀吉は、その周辺に、「太閤堤」と呼ばれる一連の事業を施し、伏見の戦略的役割を大きくしていったのでした。

前号までのあゆみ

秀吉の「狙い」

秀吉が、巨椋池周辺に堤を巡らした真の狙い。それはすでに述べたように、山城南部の交通網を伏見に集中して、洛中での不穏な動きを封じ、併せて、諸大名の財力をそぐためであったと云われています。それは東国大名に、摂津の淀川の堤を築かせたという記録からも推察されるでしょう。さらに、秀吉は、巨椋池周辺に「輪中」を造る構想を持っていたとも云われています。つまり、豊後橋・小倉堤・蘭場堤・榎島堤に囲まれた地、巨椋池・木津川・古川に囲まれた地を集落化しようとしたのです。しかし、そうした秀吉の「輪中構想」は、巨椋池の水位の調整に失敗して実現しなかつたのです。かえってその後、年月を経るにしたがって、巨椋池東方・西方ともに洪水が多発して、巨椋池への逆流や宇治川の高水位が原因になって、堤の内側は常に泥化していたと思われま

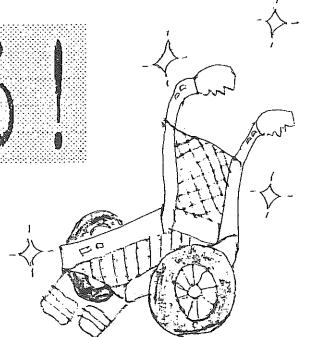
#### 豊かな水産資源

いづれにしても、秀吉の巨椋池周辺の開発は、交通の便を良くしたり、大名の財力をそぐ効果はあつても、沿岸の住民の利益には結びつかず、むしろ、洪水を誘発するなど、環境の悪化を招いたのではないかと、私は思います。

しかし、そうした時代の移り変わりや、その時々の権力者の思惑に関係なく、この巨椋池は、その畔に住む人々に、豊かな自然の恵みをもたらしたのでした。漁業は有史以前から行われていたと思われま

## 車イス贈られる!

~京都新聞社会福祉事業団より~



向島地域での、生活改善の核となり、誰もが気軽に集い利用できる『生活センター』設置を目指して活動を続ける「向島・生活センター」設立準備会に、去る十二月六日、「京都新聞ボランティア活動推奨金」として車イス二台が送られました。

この「京都新聞ボランティア推奨金」は、京滋地区で地道にボランティア活動を行っている団体に送られるものであり、今年には七十八団体の応募の中から四十九団体が選ばれました。

向島の団体では、当会他に「あそぼう会」も選ばれており、これを機に、向島地区でのボランティア活動がより一層活発になればうれしいこととす。

当会では、月一回の「会食会」や、不定期のボランティア講座などで、頂いた車イスをフルに活用したいと思っております。

すが、江戸時代の巨椋池周辺には、四つの漁業集落があつたと伝えられ、東一口（いまあらい）村・伏見弾正町（平戸・向島を含む）・三栖村・小倉村の漁民たちがそれぞれ漁業権を得て、宇治川や淀川に出漁していました。

巨椋池での主な漁獲物は、フナ・コイ・ナマズ・ウナギなどで、衿漁法などユニークな漁法が用いられていました。さらに、タニシなどの淡水産の貝類も採れたようです。冬期には、狩猟もさかに行わ

(以下、次号)

# 手話サークル

手話でコーラスもやっています!

久しぶりの、サークル紹介のコーナーです。今回は、愛隣館一階の『野の百合幼児園』で行われている手話サークル。興味のある方は、どしどし参加なさってください。

現在、メンバーは十五名ぐらいます。昨年までは、ほとんどが、野の百合や空の鳥の保護者でしたが、評判を聞きつけてか(?!?)今年も園外の方も数人参加されています。日頃、「障害」者の人と接することの多い先生や公務員、あるいは将来、通訳者を目指している人。昔から関心を持っていた人など、動機は様々ですが、身近なコミュニケーションを希望する点では同じです。

講師には、元ろう学校勤務の近藤先生や、今年からは、地域の人々にもお世話になっています。手話は、指文字から始めて家族構成くらいで一年が終わるので、初歩の状態からぬけ

出せないのが悩みではありませんが、途中で子育てや手話にまつわる興味深いお話をお聞きするのも楽しみみのひとつです。その他の活動としては、伊藤先生の講演会や手話コーラス、バザーの参加など、一年間に一つ二つぼちぼちとやっています。現在は、指文字、手話と毎回一回手話コーラスを取り入れていきます。

サークルの開催は、おおむね二週間に一回で、金曜日の夜、七時十五分～八時十五分。場所は野の百合幼児園をお借りしています。集まりにくい時間帯とは思いますが、興味のある人、講師になつて下さる人、一度のぞきに来て下さい。次回は、来年一月一日(金)、七時十五分からです。

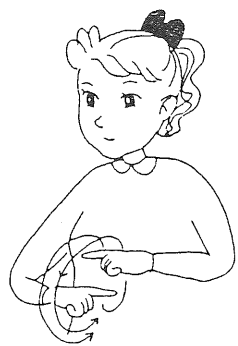
KBS京都発行  
「手で話そう」より



あなた

出会う

うれしい



手話

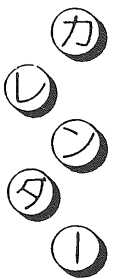
## クリスマス 献金のお願い

向島地域の様々な人々にご利用頂き、喜んで頂くことを目指して歩んでまいりました。愛隣館研修センターも、はや十一年目を数えるにいたつております。この間、色々な形で、皆様方にお世話になりましたこと、改めてお礼申し上げます。

さて、センターでは、これからの活動を、より一層充実させ、地域のニーズにも応えていくために、クリスマス特別献金をお願いしたいと思っております。

今、センターでは、より多くの方々にご利用して頂くことを目的として、『生活センター』の設置、運営を目指した運動をすすめています。また、「障害」者を持った方々、お年寄り、子どもたちなどが気軽に、安全に集えるように「エレベーターの設置」も検討していきたいと考えております。

クリスマス特別献金は、このための基金の一部にしたいと考えております。目標額は百万円です。どうぞ宜しくお願いいたします。



◇教会学校クリスマス◇  
土曜学校：十二月八日(日)午後二時～五時、於 世光教会  
日曜学校：十二月十五日(日) 午後二時～五時、於 センター。月曜学校：十二月十六日(月) 午前十一時～十一時半、於 センター  
※今年度のクリスマスでは、お隣の国「台湾」の先住民の人々について学びの時を持ちます。

クリスマス献金は、先住民の文化を守るために、台湾基督教長老教会が行っている教育プログラムに捧げられます。◇年末大掃除◇ 今年もセンターでは、たまりにたまったアカを落とすべく、年末大掃除を行います。相当な「難事業」になることが予想されます。忙しい時期ですが、宜しくお願い申し上げます。う、お願ひ申し上げます。日時：十二月三十日(月) 午前十時～きれいに片付くまで。◇年末・年始休館日◇ 十二月三十一日～一月四日まで。一月五日より平常どおり開館いたします。

窓これから益々寒さが厳しくなっています。お体に気をつけて、良い年末・年始をお迎えください。来年も又、宜しくお願いいたします。

